

✠ イースターメッセージ

驚くことはない

司祭 ヨハネ 大橋邦一

イエスはどのように復活されたのか。それについて聖書は何一つ語っていない。ただ、墓にはイエスの遺体がない、復活されたイエスは墓にはおられないということだけが書かれている。『マルコによる福音書』16章1節から8節には次のようにある。

週の初めの日の朝早く、マグダラのマリアたちはイエスの遺体に香料を塗るため、イエスが埋葬された墓に行った。マリアたちは誰が墓の石を取り除いてくれるのかと話し合っていた。ところが、墓の石はすでに取り除かれていた。聖書にはわざわざ「石は非常に大きかったのである」(マルコ16章4節)とまで書かれてある。だから、弟子や誰かが遺体を盗み出したのではないと言っていることになる。まして、復活したイエスが墓の中から、自ら石を取り除いて出てきたなどあり得ない。それでは誰が石を取り除いたのか。続く箇所には「墓の中に入ると白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた」(5節)とある。

「白い長い衣を着た若者」とは神の使いを表している。つまり、この石を取り除いたのは神だと語っているのである。

聖書の歴史をふり返れば、神の救いはいつも人知の及ばないところで、すでに実現しているのである。人間がそれを認知する、認める、信じる前に、すでにもう実現しているのである。人間にとってそれはあたかも偶然の出来事のように思われるかもしれない(「婦人たちはひどく驚いた」)が、神にとっては必然の出来事である。(「若者は言った。『驚くことはない』」)。誰もイエスがどのように復活されたのかを証明することもできない。しかし、それはすでに実現していたと、聖書は伝えているのである。

若者は「あなたがたは十字架につけられたイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。ご覧なさい。お納めした場所である」(6節)と言った。「復活なさって」とは、原語で「起こされて」という意味である。イエスは自分で復活されたのではない。神がイエスを起こされたことを意味している。

そして、神は若者を通して「さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」(8節)と婦人たちに言われた。ここにも「かねて言われたとおり」とあるように、イエスが起こされたのは神の約束の通り、神の御心の通り、人間には思いもよらない神の救いだったことが証しされている。

しかし、マルコの伝える復活の出来事は「婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、誰にも何も言わなかった。恐ろしかったからである」(8節)で終わっている。神の御心は婦人たちには届かなかったのか。

マルコがこのような復活の出来事で福音書を閉じたのは、後にこの婦人たちが自身ガリラヤ、つまり彼女たちの日常生活で復活のイエスと出会ったという体験と信仰に基づいているからであり、そして読者もまた復活のイエスに出会うと確信していたからである。

復活のイエスは墓にはおられない。永遠に、わたしたちと共におられる。「驚く事はない」。